

令和6年度(令和5年度分)

第3期大津市教育振興基本計画 及び 大津市教育大綱の進行管理報告

大津市
令和6年8月

1 目的

令和2年9月に策定した「**第3期大津市教育振興基本計画及び大津市教育大綱**」(以下「計画」という。)第6章(※)に掲げるとおり、本計画に関わる施策の実施に当たっては、PDCAサイクルの考え方にに基づき、進行管理を行う。

※第6章 2. 計画の進行管理と見直し

本計画の推進に当たっては、PDCAサイクル(Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)のマネジメントサイクル)の考え方にに基づき、重点アクションにおける成果目標の進捗管理を行うとともに、本計画の推進に係る適切な事業経費配分にも十分に留意しながら、実効性のある計画推進に努めます。また、重点アクションの内容を実現するための施策や事業の評価を踏まえ、総合的に進捗管理を行い、その結果を広く公表していきます。

2 体系及び対象

進行管理の体系及び対象は、以下の計画に掲げる(1)5つの重点アクション、
(2)5つの基本方針とする。

基本理念

新しい価値と可能性を追求する大津の教育 ～多様性を尊重し自立する人～

基本方針	重点アクション	施策
1 次代を生き抜く力を育みます	将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ	⇒①主体的に学び続ける力を育む教育の推進／②よりよく生きる心の教育の推進／③人生100年時代の体をつくる教育の推進／④感性豊かでふるさとに愛着を持てる教育の推進／⑤超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進(次世代教育の推進)
2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます	安心して学べる学校づくり	⇒①いじめ防止対策の総合的な推進／②不登校対策と多様なニーズに合わせた教育の充実／③特別支援教育の充実／④安心・安全な学校づくりの推進
3 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います	子どもと市民に信頼される学校づくりと教職員の資質向上	⇒①主体的で自律した学校の創造／②学校教職員の資質の向上と人材育成／③社会に開かれた学校、産官学民連携の推進／④持続可能な社会に対応する教育への変革
4 社会全体で子どもを育てます	家庭教育と家庭・地域・学校の協働の充実	⇒①家庭・地域の教育力の向上／②子どもを育てる環境づくりの推進／③「チームとしての学校」の推進
5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します	持続可能な地域づくりを担う人材の育成	⇒①主体的に学び、行動できる人材の育成／②大津の歴史と伝統、文化を次代に継承する学習機会の充実／③市民の健康づくりと生涯スポーツの推進／④思いやり・助け合いの心の醸成

3 進行管理

(1)方法

① 全体総括

- ▶ 重点アクション及び基本方針に係る評価及び方向性について総括する。

② 重点アクション毎の整理

- ▶ 成果目標の達成状況を確認する。
- ▶ 実施状況及びその効果、今後の取組や方向性を整理する。

③ 基本方針毎の整理

- ▶ 施策の実施状況、効果および課題について整理する。
- ▶ 方針毎に、今後の取組や方向性を整理する。

3 進行管理

(2)結果

① 全体総括

1	① 重点アクション及び基本方針に係る総括	<p>令和5年度においては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもたちの思いをもとに地域・学校が力を合わせ実施している「学校夢づくりプロジェクト」に加え、新たに作家やトップアスリート等との交流する「学校夢づくり+(プラス)」を開始するなど、自分らしい生き方や夢の実現について学ぶ取組を進めた。 ■ 不登校対応の広域化の一環として、学びの機会を確保するため教育支援ルーム「ウイング和邇」の開設するとともに、在籍校や家庭を訪問して相談を実施するアウトリーチ型支援を充実するなど、教育支援センターを中心に学校と連携し、多様な教育的ニーズに合わせた支援の充実に取り組んだ。 ■ 学校施設について、引き続き長寿命化計画に基づく施設改良工事やトイレ改修工事など、安心・安全な学校の教育環境の整備に取り組むとともに、新たに体育館の空調設備設置に向けた事業に着手した。 				
2	重点アクション及び基本方針に係る評価及び方向性	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">基本方針</td> <td style="padding: 5px;">① 次代を生き抜く力を育みます</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">重点アクション</td> <td style="padding: 5px;">① 将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ■ 教員が、学級・授業づくりで大切にすべき視点を3つのステップで具体的に提示し、全市的で取組を進めている。多くの教員が意識をして取り組んでいるところであるが、安心して学ぶことができる居場所づくりが学びの土台として大切であり、引き続き重点化して取組を進めていく。 ■ タブレット端末の活用は、多くの教員が日常的に活用できるようになりつつある。今後は、活用すべき場面、方法等を工夫し、より効果的な活用となるよう引き続き研修等を充実する必要がある。 ■ 学校においては、児童生徒の学習の状況等を踏まえ、校内研究のテーマを定め、授業改善に取り組んでいるところであるが、成果を上げる学校の取組を紹介するなど、組織的に共通理解・実践し、効果的な研究となるよう取組を進める。 ■ 人権教育や道徳教育など、教育課程全般を通じて児童生徒の心の成長につながる取組を進めているところであるが、現代的な人権課題も含めて、より児童生徒の心に響き人権意識や道徳性が高まるよう、外部講師の招聘や体験的な学びなど、指導方法を工夫しながら取組を進めていく。 	基本方針	① 次代を生き抜く力を育みます	重点アクション	① 将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ
基本方針	① 次代を生き抜く力を育みます					
重点アクション	① 将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ					

3 進行管理

(2)結果

①全体総括

2	重点アクション 及び基本方針 に係る評価及 び方向性	基本方針	② 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます
		重点アクション	② 安心して学べる学校づくり
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校においては、子ども支援コーディネーターを中心に、幅広く子どもの不安や悩み、課題に寄り添ってきたところであるが、引き続き、学校を支える体制も整えながら、子どもの安心につながる学校づくりに努めていく。 ■ 特に、不登校対策・特別支援教育については、重要な教育課題として捉え、引き続き教育支援センターを中心に組織体制の強化・充実を図るとともに、関係機関とのさらなる連携強化をすすめ、市全体の一体的な取組の推進に努めていく。 ■ また、学校施設については、長寿命化計画に基づく施設改良工事やトイレ整備に特化した改修工事に加え、体育館の空調設備設置などにより、今後も、安心安全な学校の教育環境の整備に努めていく。 	
		基本方針	③ 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います
		重点アクション	③ 子どもと市民に信頼される学校づくりと教職員の資質向上
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校においては、学校運営協議会をはじめとして、子どもを家庭、地域、学校の協働で支える体制づくりが進んでいる。3年目を迎える学校夢づくりプロジェクトは、これまでの成果を踏まえながら、子どもの思いや発想を大切に、地域とともに工夫した取組が多く見られ、特色ある学校づくりの推進につながったと考える。 ■ 子どもや保護者に信頼される学校づくりに向けて、教職員が子どもと向き合える時間を十分に確保できるよう取組を進めるとともに、主体的で自律的な学校、特色ある学校を目指し、コミュニティスクールや地域学校協働活動との連携を深めながら「地域とともにある学校」の実現に向けて取り組んでいく。 	

3 進行管理

(2)結果

① 全体総括

2	重点アクション及び基本方針に係る評価及び方向性	基本方針	④ 社会全体で子どもを育てます
		重点アクション	④ 家庭教育と家庭・地域・学校の協働の充実
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校運営協議会については、「地域とともにある学校」の趣旨を再確認し、自校の運営状況を評価しながら改善を図る必要がある。引き続き研修会や他校の事例等を紹介するなど、学校運営協議会が活性化するように支援していく。 ■ 子育ての不安や悩みを抱えている保護者に寄り添った相談の場や、子育ての楽しさが感じられるような子育て講座等を実施した。特別支援教育に係る相談や子ども・若者総合相談、また、家庭での養育が困難なケース等について引き続き、保護者の子育てに係る相談体制や学習機会を充実させるとともに、子どもの居場所づくりや関係機関との連携を進めることも含めて、家庭・地域と学校園及び行政が一体となり、子どもを育てる環境づくりに努めていく。 ■ また、園での絵本貸し出しや子育て講座等を通して、絵本に触れる機会や、家庭での読書環境づくりにつながるように努めており、今後も、読み聞かせの大切さを伝え、子どもの読書習慣が身に付くよう取り組んでいく。 	
		基本方針	⑤ 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します
		重点アクション	⑤ 持続可能な地域づくりを担う人材の育成
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、制限されていたほとんどの活動がコロナ禍前の水準に回復したが、新しい生活様式の普及や社会情勢の変化により、人と人との交流の機会の減少による地域コミュニティのつながりの希薄化や地域づくりを担う人材の育成が課題となっている。 ■ 今後も引き続き、地域の歴史や文化、スポーツなどを通じた社会教育の学びや活動の機会の創出は、本施策が掲げる地域づくりのための市民意識の醸成につながることから、本市の歴史遺産や伝統文化を活かしながら、出前講座の更なる充実、地域への愛着を育む大津人基礎講座や地域づくりのために行動する大津人実践講座の開催、健康づくりにおける運動やスポーツの機会の充実、多様性を認め合い人権意識の向上に向けた取組などを推進していく。 	

3 進行管理

(2)結果

② 重点アクション毎の整理

1 将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ

項目		R1基準値		R2	R3	R4	R5	R6
1	全国学力・学習状況調査において 全国平均を上回った教科区分数 教科区分：小学校(国語・算数) 中学校(国語・数学) <学校教育課>	小 1/2 中 1/2	評価	-	×	△	○	
			目標	小 2/2 中 2/2	小 2/2 中 2/2	小 2/2 中 2/2	小 2/2 中 2/2	小 2/2 中 2/2
			実績	-	小 0/2 中 1/2	小 0/2 中 2/2	小 1/2 中 2/2	
2	全国学力・学習状況調査において 学習への関心・意欲・態度に関わる 質問「○○の勉強は好きですか」に 肯定的な回答をした児童生徒の割合 <学校教育課>	小59.6% 中57.6% (全国: 小64.2% 中61.7%)	評価 (国語)	-	小 △ 中 △	小 △ 中 △	小 △ 中 △	
			目標 (国語)	-	(全国平均) 小 58.4% 中 60.8%	(全国平均) 小 59.2% 中 61.9%	(全国平均) 小 61.5% 中 61.4%	(全国平均)
			実績 (国語)	-	小 53.8% 中 53.1%	小 55.9% 中 56.3%	小 59.6% 中 53.2%	
		小63.4% 中57.6% (全国: 小68.6% 中57.9%)	評価 (算・数)	-	小 △ 中 △	小 △ 中 △	小 △ 中 △	
			目標 (算・数)	-	(全国平均) 小 67.8% 中 59.1%	(全国平均) 小 62.5% 中 58.1%	(全国平均) 小 61.4% 中 56.7%	(全国平均)
			実績 (算・数)	-	小 62.0% 中 57.8%	小 55.4% 中 55.2%	小 55.6% 中 53.7%	
3	小・中の一貫したカリキュラム(教育課程)を 作成した中学校区の割合 <学校教育課>	0%	評価	-	×	×	△	
			目標	0%	5%	15%	20%	30%
			実績	0%	0%	11%	17%	

【◎:目標+5%以上(順調)、○:目標以上~+5%未満(概ね順調)、△:-20%~目標未満(やや不調)、×:-20%未満(不調)】

※指標1における評価基準については、◎:4/4、○:3/4、△:2/4、×:1/4、0/4 としている。

※重点アクションにおける指標については、重点的な施策として、評価基準を上記のとおり設定している。(以下同じ。)

3 進行管理

(2)結果

② 重点アクション毎の整理

1 将来の夢や可能性を広げる学ぶ力アップ

重点アクションの 指標について	<ul style="list-style-type: none">■ 項目1に関して、小学校の平均正答率は、県平均を上回った。算数は1.5%全国平均を上回り、国語では全国平均と同率であった。 【大津市(全国):国語67.2%(67.2%)、算数64.0%(62.5%)】 中学校においては、県平均を上回るとともに、国語は0.2%、数学は2.0%、全国平均を上回った。 【大津市(全国):国語70.0%(69.8%)、数学53.0%(51.0%)】 小中学校ともに、全国平均を上回る、同率の結果であったが、学校により、課題となる点 が異なることから、各校が自校の結果を分析し、課題を踏まえた学力向上の取組を主体的 に実践できるよう、より効果的な授業改善に向け支援を行っていく。■ 項目2に関して、小学校は国語で1.9%、算数で5.8%、中学校においては、国語で8.2%、 数学で3.0%と全国の肯定的回答の平均を下回った。令和4年度と比較すると、肯定的な回 答が小学校での国語、算数ともに上回ったが、中学校では両教科ともに下回った。ここ数年、 本市においては、同項目において全国平均を下回る結果となっており、学ぶ楽しさが実感で きるよう、特に主体的な学びの推進を力点に、ICTの効果的な活用や、協働的な学びの場 の工夫等の授業改善をすすめていく。■ 項目3に関して、生徒指導上の連携に加え、学習面での小中連携も進みつつあるが、一貫力 リキュラムを作成するまでには至っていない。特に、総合的な学習の時間について、一貫した カリキュラムを作成した実践例を小・中学校へ紹介し、円滑な接続と各中学校区の児童生徒・ 学校・地域の実情等を踏まえたカリキュラム作成を進めていく。
--------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 進行管理

(2)結果

② 重点アクション毎の整理

2 安心して学べる学校づくり

項目		R1基準値		R2	R3	R4	R5	R6
1	全国学力・学習状況調査において学校生活に関わる質問(「学校に行くのは楽しいと思いますか」)に肯定的な回答をした児童生徒の割合	小86.9% 中80.9% (全国平均) 小85.8% 中81.9%)	評価	-	小 ○ 中 ○	小 ○ 中 △	小 ○ 中 △	
			目標	実施なし	(全国平均) 小 83.4% 中 81.1%	(全国平均) 小 85.4% 中 82.9%	(全国平均) 小 85.3% 中 81.8%	(全国平均)
			実績	実施なし	小 84.8% 中 81.7%	小 85.9% 中 81.9%	小 87.0% 中 79.5%	
2	小中学校における個別の指導計画の作成率(特別な支援を要する児童生徒のうち、個別の指導計画を作成している割合)	71%	評価	△	△	△	△	
			目標	74%	78%	82%	86%	90%
			実績	65%	76%	78%	78%	

【◎:目標+5%以上(順調)、○:目標以上~+5%未満(概ね順調)、△:-20%~目標未満(やや不調)、×:-20%未満(不調)】

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

2 安心して学べる学校づくり

重点アクションの 指標について

- 項目1に関して、肯定的回答をした児童の割合が全国平均を小学校で1.7%上回り、中学校で2.3%下回った。
【大津市(全国):小学校87.0%(85.3%)、中学校79.5%(81.8%)】
小中学校においては「笑顔輝く大津の教育」を目指し、教員が子どもの居場所づくりや授業づくり等について大切にしたい視点を示し、全教職員で意識した取組をすすめてきた。引き続き、学校を支える体制も整えながら、より子どもの安心につながる学校づくりに努めていく。
- 項目2に関して、個別の支援を要する児童生徒について、学校が日々の状況を観察したことによる見立てと、保護者の子どもの発達状況のとらえや特別支援教育に対する理解や思いが一致せず、個別の指導計画の作成につながらなかったことが要因として考えられる。さらには、学校が子どもの様子をしっかりと観察し、個々の特性や、発達に起因する課題を見極め、どのような支援が必要であるのかを見立てる力を向上させる必要があると考えられる。今後も教職員を対象とした研修会を通じ、個別の指導計画の作成と活用が円滑に進むように指導し、引き続き指導計画の作成に係る進捗状況を把握する調査等を実施する。また、特別支援教育コーディネーターを中心として校内委員会を定期的開催し、専門家の意見を交えた児童生徒のアセスメントを行い、支援の方向を決定するなど、組織的な校内支援体制を機能させ、子どもの育ちや学校生活の状況等について、保護者に寄り添いながら子どもを支える関係づくりを進めていく。

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

3 子どもと市民に信頼される学校づくりと教職員の資質向上

項目		R1基準値		R2	R3	R4	R5	R6
1	子ども・保護者による 学校評価の評価点 (アンケート調査により確認) ※直近までの5年間平均(3点満点)	2.32	評価 (子ども)	○	△	△	△	
			目標 (子ども)	2.35	2.4	2.43	2.46	2.5
			実績 (子ども)	2.37	2.38	2.39	2.43	
		2.22	評価 (保護者)	△	△	△	△	
			目標 (保護者)	2.25	2.3	2.33	2.36	2.4
			実績 (保護者)	2.19	2.21	2.22	2.27	
2	教職員の在校等時間の減少 (全教職員の月平均 時間外在校等時間数の削減) (単位:時間)	小 31.5 中 43.0	評価	小 ○ 中 ◎	小 × 中 △	小 × 中 △	小 × 中 △	
			目標	小 30.0 中 41.0	小 28.5 中 39.0	小 27.0 中 37.0	小 25.5 中 35.0	小 24.0 中 33.0
			実績	小 28.8 中 36.6	小 36.2 中 43.4	小 35.2 中 43.2	小 33.1 中 41.6	

【◎:目標+5%以上(順調)、○:目標以上~+5%未満(概ね順調)、△:-20%~目標未満(やや不調)、×:-20%未満(不調)】

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

3 子どもと市民に信頼される学校づくりと教職員の資質向上

<p>重点アクションの 指標について</p>	<ul style="list-style-type: none">■ 項目1に関して、「子どもによる学校評価」「保護者による学校評価」のいずれも、目標値には達しなかったものの令和4年度実績を上回り、過去4年で最高値となった。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、これまで制限を受けていた多くの教育活動が実施できるようになり、子どもが体験的に学ぶ機会や保護者が子どもの様子を参観できる機会が増えたことも要因であると考えます。本指標は、「子ども」「保護者」を対象とする学校の教育活動の総合的な評価であることから、各学校が評価内容を詳しく分析し、具体的な改善につなげていくことが重要である。■ 項目2に関して、令和3年度から、ICカードによる勤怠管理を導入したことにより、より客観的な在校等時間の把握ができるようになった。令和5年度の実績は、前年度より減少しているものの、削減目標には至っていない。新たな教育による業務や負担が増加する中、在校等時間が増加していないことは、これまでの取組の成果であると考えますが、今後もより客観的な在校等時間の把握と分析、見える化を進め、在校等時間の削減に向けて業務の役割分担の適正化やICTの活用による効率化など、働き方改革を推進していく。
----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

4 家庭教育と家庭・地域・学校の協働の充実

項目		R1基準値		R2	R3	R4	R5	R6
1	学校運営協議会制度 (コミュニティスクール)の導入率	67%	評価	◎	◎	○	◎	
			目標	76%	80%	85%	90%	100%
			実績	80%	84%	89%	96%	
2	子育て講座の保護者満足度の増加 (子育て講座アンケート調査により 「満足」(5段階中最も良い評価) と回答した率)	81%	評価	○	○	○	◎	
			目標	81%	82%	83%	84%	85%
			実績	81%	84%	84%	93%	

【◎:目標+5%以上(順調)、○:目標以上~+5%未満(概ね順調)、△:-20%~目標未満(やや不調)、×:-20%未満(不調)】

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

4 家庭教育と家庭・地域・学校の協働の充実

重点アクションの 指標について	<ul style="list-style-type: none">■ 項目1に関して、令和5年度は、既に本事業を実施している2幼稚園、37小学校、12中学校の計51校園に加え、新たに中学校4校の合計55校園において導入し、目標を上回った。本制度導入により、地域・家庭・学校が協働して子どもの育ちを支える体制づくりが進んでいる。■ 項目2に関して、幼稚園、保育園、子育て総合支援センターにおいては、計画的に子育て支援事業を実施している。令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、徐々に事業の実施方法の幅も広がり、参加された保護者のアンケートからも評価を得られ、目標値を上回った。今後も保護者のニーズに合わせて講座を開催し、家庭教育の充実につなげていく。
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

5 持続可能な地域づくりを担う人材の育成

項目		R1基準値		R2	R3	R4	R5	R6
1	市民の主体的な学び (出前講座利用者数)の増加	2,752	評価	×	×	×	△	
			目標	2,800	2,850	2,900	2,950	3,000
			実績	527	650	1,341	2,694	
2	出前講座利用者の満足度の増加 利用者のアンケート調査により 「とても良い」(5段階中最も良い評 価)と回答した率	70%	評価	△	△	○	△	
			目標	72%	74%	76%	78%	80%
			実績	64%	70%	79%	72%	
3	大津人実践講座参加者数 (延べ人数)の増加	298人	評価	○	○	◎	◎	
			目標	310人	320人	330人	340人	350人
			実績	312人	331人	356人	371人	

【◎:目標+5%以上(順調)、○:目標以上~+5%未満(概ね順調)、△:-20%~目標未満(やや不調)、×:-20%未満(不調)】

3 進行管理

(2)結果

②重点アクション毎の整理

5 持続可能な地域づくりを担う人材の育成

重点アクションの 指標について	<ul style="list-style-type: none">■ 項目1については、目標数値には届いていないものの、令和4年度に比べ2倍の利用者数となり、コロナ禍前の状況に戻つつある。今後も、自主的な学びの場を幅広く提供しながら、更なる利用者の確保に取り組んでいく。■ 項目2については、前年度よりアンケート回収率が上昇したものの、満足度として7ポイント減少した。利用者の声となるアンケート内容を十分に分析して対象所属へ共有しながら、引き続き講座内容の充実を努め、利用者満足度が上がるよう取組を進めていく。また、新たなコンテンツの提供者や利用に関する電子化など、市民が利用しやすい出前講座となるよう取り組んでいく。■ 項目3については、目標を上回ることができた。引き続き、大学や地域との連携を深めながら地域づくりを担う人材の育成に取り組んでいく。
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針1 次代を生き抜く力を育みます

1. 予定事業の実施状況

A 順調 B 概ね順調 C やや不調 D 不調

学力向上推進事業、幼稚園子育て支援事業、体育指導推進事業、体験的学習推進事業、ICT環境整備事業といった事業などによって、本方針を構成する5つの施策の実施に努め、実施状況はおおむね順調となった。

全指標数	達成	未達成
38	24	14

※A:75%以上(順調)、B:75%未満～50%以上(概ね順調)、C:50%未満～25%以上(やや不調)、D:25%未満(不調)

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針1 次代を生き抜く力を育みます

2. 施策における主な評価及び方向性

施策1 主体的に学び続ける力を育む教育の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 学校では、児童生徒の学習状況を踏まえ、学ぶ力向上に係る方策を検討し、実践に努めている。全教員が共通理解と実践に努め、積極的で具体的な取組を行い、成果を上げる学校もある。■ 指導主事による学校訪問では、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、各校の課題や学ぶ力向上策に応じた指導助言を行い、学校が主体的に授業改善を行うための支援をした。また、授業力向上研修会、教育研究発表大会を開催し、本市の学力課題の周知と効果的な指導方法、校内研究の在り方についての普及に努めた。■ 小学校高学年における教科担任制は、加配教員の活用を含め、学級担任が互いに授業交換を行い、指導する教科数を絞ることで効率的に教材研究、評価等が行えるようになることや多面的な児童理解につながる側面も含めて取り組む学校が多くなってきている。■ 幼稚園では、幼児が好奇心をもって、自ら環境に関わり、主体的に学ぶ姿を大切にした教育に努めた。■ 幼小連携においても、園児・児童との交流や教職員の交流、授業・保育公開等が行われているが、校区によって意識や取組の方法には差がみられた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 引き続き、学びの土台となる大津の教員として大切にしたい3つのステップを全市的に意識して取り組むとともに、学ぶ楽しさが実感できるよう、特に主体的な学びの推進を力点に、ICTの効果的な活用や、協働的な学びの場の工夫等の授業改善をすすめていく。■ 小学校教科担任制については、学校訪問の機会等を通じて、各校の取り組み状況を把握するとともに、工夫した取組や効果のある取組を他の学校に周知するなど、一層の推進を図る。■ 学ぶ力の向上のため、学校に対して積極的な働きかけを行うとともに、指導主事による学校訪問や研修会で各校の研究や授業改善の取組を下支えする。■ 各中学校区において、総合的な学習の時間を中心に、小学校、中学校のカリキュラムを共有し、系統性や学習内容の見直しを図る。■ 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を窓口に、幼小で接続期カリキュラムの作成や互いの子どもの姿の共有から架け橋期の学びをつなぐ連携を推進する。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針1 次代を生き抜く力を育みます

施策2 よりよく生きる心の教育の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 様々な人権問題を自分や自分の身近な人の問題として捉え、人権に配慮した行動をとることができるよう、各学校で発達段階に応じた人権教育の取組を進めた。また、幼稚園、小中学校の人権担当者を対象とした年2回の研修会を開催し、本市の人権教育の方針や重点について説明するとともに、講師を招き、現代社会における人権課題について研鑽した。■ 教科化された「特別の教科 道徳」について、児童生徒が「考え・議論する」道徳授業を要として、全教育活動を通じて道徳教育の実践に取り組んでいる。年2回の道徳教育に係る研修会を開催し、授業づくりや評価の在り方等について専門性を高める研修を実施した。■ 幼児期より、身近な人との関わりを通して様々な感情体験を大切にしている。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 新たに生じる人権課題に関する偏見や差別を解消する取組を推進するとともに、児童生徒の発達段階に応じ、一人ひとりの違いや価値を認め、多様性を尊重する「子どもが輝く」心の教育を目指し、福祉・人権に関する学習を進めていく。■ 教職員が正しい認識と豊かな人権感覚をもち、学校生活のあらゆる場面で人権教育を推進する。また、人権週間やいじめ防止啓発月間をはじめ、日々の学校生活の中で、子どもたちがよりよい共生社会について考え、行動できるような実践力の育成と人権意識の高揚に努めていく。

施策3 人生100年時代の体をつくる教育の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 小学校においては、大津市小学校体育連盟と連携しながら、主体的に運動に取り組むことのできる授業についての研修や陸上記録会、チャレンジランキング等の児童の体力向上に係る取組を進めた。■ 児童生徒が心身の健康について自ら考え実践できるよう、専門家と連携した歯科保健指導や薬物乱用教室等を実施した。■ 中学校の部活動については、令和4年度に引き続き「大津市中学校部活動地域移行検討懇話会」を設置し、地域移行に係るコンセプトを策定するとともに、ソフトボール部の合同部活動や大学と連携した美術活動のモデル事業を実施した。■ 学校給食では、滋賀県産の湖魚(こあゆ、もろこ、びわます、わかさぎ、すじえび)や近江牛といった地場産物を活用した献立や通常の麦ごはんに替えて、一部大津市産米の白ごはんを提供している。また、食育指導専門員(楽食プロモーター)を雇用し、食に関する指導の更なる充実を図ることで、地産地消や食に関する関心を高める取組を行っている。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 児童生徒が「運動は楽しい」と感じ、主体的に運動に親しむことができるよう体育学習の授業改善を進める。■ 引き続き、小学校体育連盟、中学校体育連盟等との連携を図りながら、児童生徒の体力向上に向けた取組を進めていく。■ 中学校の部活動の地域移行については、引き続き、懇話会の意見を参考に、モデル事業の実施等を通して、本市の実情に応じた地域移行を段階的に取り組む。■ 令和2年1月より全中学校で給食が開始されたが、小学校に比べ残食が多い傾向にある。引き続き、地場産物を活用した給食の提供など献立を工夫するとともに、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくよう、学校の授業等に加え、食育指導専門員(楽食プロモーター)を活用した指導を行うなど、更に食育を推進していく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針1 次代を生き抜く力を育みます

施策4 感性豊かでふるさとに愛着を持てる教育の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">令和3年度からの子どもたちの思いをもとに地域・学校が力を合わせ、創意工夫を凝らした「学校夢づくりプロジェクト」を、令和5年度も全小中学校で実施した。本プロジェクトにより、学校の教育活動を活性化し、児童生徒の主体性が高まるとともに地域への愛着心の醸成につながった。また、新たに作家やアスリート等との交流を通して自分らしい生き方や夢の実現について学ぶ「学校夢づくり+(プラス)」を開始した。キャリア教育の一環として中学生を対象として実施している「職場体験」では、コロナ禍を経て業種には限りがあったが、全学校が実施した。各校が創意工夫しながら取り組めるよう日程調整や事業所調整等の支援を行った。
方向性	<ul style="list-style-type: none">児童生徒が、葛川ふるさと体験学習などの校外学習や栽培活動等の体験活動を通して、命や自然の大切さ、地域への愛着心、人とのつながりを深めるため、その目的を再確認して、取り組みの質の向上を図る。中学校の「職場体験」を、生徒が、職業観や生き方を考え、深めることができる機会を設け、キャリア教育の充実を図る。学校夢づくりプロジェクトは、これまでの成果を踏まえ、さらに「特色ある学校づくり」「地域とともにある学校」を目指し、学校の主体的な取組を後押しする。

施策5 超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進(次世代教育の推進)

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">学びの充実につながるICT機器を活用した授業実践や家庭学習、遠隔教育等の多様な実践を進め、その成果を市内各校へ情報共有して広めた。タブレット端末の効果的な活用を推進していくために、指導主事が各校を訪問して学校単位での研修を実施し、教員の指導力向上に努めた。児童生徒の情報モラルを育成するために、「GIGAワークブックおおつ」を活用した、各校での実践をまとめ、市内各校へ情報共有して広めた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">日常的な活用から効果的な活用が図られるよう、各校でのOJT研修、情報化リーダー研修、指導主事の学校訪問による研修を実施し、教員のICT活用指導力のさらなる向上に努める。情報化リーダーが中心となって、ICTの効果的な活用に向けた授業研究を実施し、それらを広く情報共有することで、子どもたちの学びがより充実したものになるよう取組を進めていく。「GIGAワークブックおおつ」を活用して、児童生徒の情報モラルの育成に努める。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます

1. 予定事業の実施状況

A 順調 B 概ね順調 C やや不調 D 不調

いじめ対策等充実事業、子ども・若者育成支援推進事業、特別支援教育充実事業、交通安全推進事業といった事業などによって、本方針を構成する4つの施策の実施に努め、実施状況はおおむね順調となった。

全指標数	達成	未達成
34	20	14

※A:75%以上(順調)、B:75%未満～50%以上(概ね順調)、C:50%未満～25%以上(やや不調)、D:25%未満(不調)

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます

2. 施策における主な評価及び方向性

施策1 いじめ防止対策の総合的な推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 市立小中学校に子ども支援コーディネーターを配置するとともに、必要に応じて弁護士やスクールソーシャルワーカー等外部専門家派遣を行うことで、児童生徒が抱える様々な課題にきめ細かく対応できる体制を構築している。■ 令和5年度のいじめ認知件数は、中学校1,396件、小学校6,311件であり、令和4年度と比較し、小中あわせて556件減少している。また、いじめ対策委員会による組織的な対応は、令和4年度と比較すると936回増加しており(令和5年度21,656回、平均約393回/校)、多くの事案において児童生徒の心に寄り添い解決につなげている。■ いじめ対策に係る基本的な考え方や対応方針をまとめたリーフレットを作成し、全教職員に配布することで、教職員のいじめ問題に対する意識、資質の向上を図った。■ いじめ対策推進室において、多くの悩みを抱える子どもたちに対して、深刻なケースになる前に気軽に相談できる窓口の充実を図ったことにより、令和5年度は、936件の相談対応を行った。また、啓発カードやおおつつこ相談チーム通信の配布や手紙相談の改良等により、誰もが相談しやすい環境づくりや、市民に対する意識の醸成に努めた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ いじめ認知件数の減少は、これまで行ったいじめ対策や児童生徒への指導の結果であると評価できるが、一方で、授業をはじめ学校での教育活動において、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成という生徒指導の実践上の視点を生かすことで、いじめが起きにくく、安心して児童生徒が過ごせる学校や集団づくりに努めていく。また、初期対応等に課題があり、複雑化する事案も見られることから、引き続き、解決が困難な事案には、専門家を派遣するなどして、適切な対応が図られるように努めていく。■ いじめ対策推進室では、多様化する子どもたちの抱える課題の解決に向けて、引き続き、教育委員会等の関係機関と連携して取り組んでいく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます

施策2 不登校対策と多様なニーズに合わせた教育の充実

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 不登校対応の広域化の一環として、中学校ウイング和邇を開設して学びの機会を確保し、支援の充実を図った。■ 在籍校や家庭を訪問して相談を実施するアウトリーチ型支援の対象を中学生に拡大し、学校と連携しながら適切な支援を行った。■ 教育支援ルーム「ウイング」は小学生46名、中学生36名が通所し、各自のペースに合わせた学力補充や、人間関係の構築、コミュニケーション力の向上等、学校復帰や社会的自立に向けた成果が見られた。■ 相談内容に応じて、子ども発達相談センター、児童生徒支援課、学校教育課、少年センター、教職員室、大津市子ども・若者総合相談窓口などの関係機関と連携し、支援に努めた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 中学校ウイング瀬田を新たに開設するとともに、市内小中学校に校内ウイングを設置し、研究実践校4校において事業の効果について検証を行う。また、フリースクール等との連携について取組を進めるなど、学校以外での子どもの居場所づくりや学びの機会の確保にも努めていく。■ 子どもや家庭の課題が複雑多様化しており、専門医、スクールカウンセラー(SC)およびスクールソーシャルワーカー(SSW)等の専門家や関係機関の連携強化に努めていく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます

施策3 特別支援教育の充実

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 子ども発達相談センターでは、発達に課題をもつ幼児から中学生の相談支援を通じて、保護者や校園の理解を促し、対応や支援の方向性について共通理解をはかることで、保護者の子育てと、子どもの育ちを支援している。また、各学校での特別支援教育や合理的配慮が進むよう、教育支援センターとの連携に努めている。■ 教育支援センターと子ども発達相談センターの連携強化を図り、就学前後の途切れない支援に努めた。■ 小中学校においては、特別な教育的支援を要する児童生徒の増加、ニーズの多様化等により、その対応や支援の重要性が高まり、学校の教育課題となっている。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ コロナによる子どもの心や発達の影響等もあり、情緒面、生活面、学習面などの問題が増加している。低年齢や発達に課題をもつ児童ほど影響を受けやすいことから、これらの児童が早い段階で発達相談につながり、学齢期を通じて途切れない支援を行うとともに、関係機関の連携により必要な教育的支援につなぐ。■ コミュニケーションがうまく取れずに、他者とのトラブルや不適應になるケースもあり、巡回相談の実施などにより、専門的な助言を行うとともに、学校生活支援員や医療的ケアに係る支援員の配置などの人的な支援を行い、学校の特別支援教育体制を支援するとともに、教員に対する研修等の充実を図っていく。■ 児童生徒の特性に応じたきめ細かな支援を行う上で、個別の指導計画は重要であり、今後、保護者との情報共有、連携を一層進め、指導計画の作成、活用に努めていく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針2 子どもが安心して学ぶことができる環境を整えます

施策4 安心・安全な学校づくりの推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 児童生徒の事故予防や体調管理に関するガイドラインを発出し、各学校が児童生徒の安全・健康を最優先に教育活動の工夫を行う指導・助言を行った。■ 児童生徒の安全な通学を確保するため、「大津市通学路交通安全プログラム」に基づく合同点検を実施した。年度末には合同点検で確認した対策必要箇所約66%について各機関により対策が講じられ、通学路の安全確保に努めた。■ 令和2年度に策定した「大津市学校施設長寿命化計画」に基づき、長寿命化改良工事を計画的に実施した。令和5年度は、小学校1校、中学校1校においてアスベスト調査及び耐力度調査を、小学校1校、中学校1校において実施設計を、小学校3校、中学校1校において長寿命化改良工事を行った。また、長寿命化改良工事とは別に、全面洋式化や床の乾式化、給排水設備の更新等を行うトイレ整備に特化した改修工事を行うために、小学校2校、中学校2校において実施設計を行い、小学校1校、中学校4校においてトイレ改修工事を行った。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 児童生徒の安全・健康に留意した教育活動の実施のために、今後も適切な指導・助言を継続していく。■ 通学路の安全対策については、関係機関との合同点検を実施し、適切な対策が講じられるよう各関係機関に働きかけていく。■ 学校施設の維持管理については、児童生徒の安全を第一に、必要に応じた修繕等、適切、迅速な対応を図っていく。また、長寿命化改良工事、トイレ改修工事、体育館の空調設備設置など、計画的な進捗管理に努める。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針3 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います

1. 予定事業の実施状況

A 順調 B 概ね順調 C やや不調 D 不調

学校支援総合推進事業、教職員研修事業、家庭・地域教育推進事業、教職員健康診断事業といった事業によって、本方針を構成する4つの施策の実施に努め、活動指標の実績からも、概ね順調な実施状況であった。

全指標数	達成	未達成
16	11	5

※A:75%以上(順調)、B:75%未満～50%以上(概ね順調)、C:50%未満～25%以上(やや不調)、D:25%未満(不調)

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針3 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います

2. 施策における主な評価及び方向性

施策1 主体的で自律した学校の創造	
取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 新たに中学校4校において学校運営協議会が設置(令和5年度末:幼稚園2園、小学校全校、中学校16校)され、地域、家庭、学校が協働して子どもの育ちを支える体制の整備が進んだ。また、3年目となる学校夢づくりプロジェクトは、これまでの成果を踏まえ、子ども主体、地域と協働した取組が推進され、特色ある学校づくりにつながった。令和5年度から保護者への連絡ツールを市内一斉導入し、効率的な保護者への情報共有につながった。■ 教育長及び教育委員によるスクールミーティングは、幼稚園5園、小中学校については令和4年度分と合わせるとほぼ全ての学校において実施した。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 学校運営協議会については、「地域とともにある学校」の趣旨を再確認した上で、各協議会の活動状況を振り返り改善につなげていくとともに、幼稚園、保育園等との連携、地域学校協働活動との一体的な推進など、内容の充実を図っていく。また、学校がより主体性を発揮し、特色ある教育活動を行うことができるよう、「学校夢づくりプロジェクト」事業をより一層教育的意義を高めながら発展させる。■ 従来より実施している、教育長及び教育委員によるスクールミーティングを継続して行い、幼稚園及び小中学校の施設、園児・児童生徒の学校生活の様子等についての現状や課題の把握に努めるとともに、課題にスピード感を持って対応する。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針3 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います

施策2 学校教職員の資質の向上と人材育成

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 教職員研修は、集合研修を基本としながら、オンライン・オンデマンド研修も効果的に取り入れ実施した。教職員の資質向上を図るため、魅力的な講師を招くとともに、受講者が主体的に参加し議論や交流により理解が深まるよう努めてきた。また、6年次までの若手教員と臨時的任用教員を対象に、学校からの要請に応じて学校園訪問を行い、授業・学級経営の基礎・基本を実践に即して指導助言し、指導力の向上に取り組んだ。■ 大津の教育を担うリーダーの育成のため、管理職へのマネジメント研修や、ミドルリーダー研修の充実に努めた。■ 事務職員を対象とした研修の機会を増やした。また、臨時的任用教員に対しては、これまでの研修に加えて希望があれば初任者研修への参加を認めるなど、事務職員と臨時的任用教員への研修機会の確保に努めた。■ 教職員の不祥事防止のため、各ステージ研修において専門家の活用を図りながら、様々な観点から研修を実施した。さらに学校全体で人材育成に取り組む校内のOJTを推進するために、OJT推進リーダー研修を実施した。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 教職員研修については、今後も若手教員の増加が想定されることから、各校のOJTによる日常的な研修を充実させるとともに、初任者だけでなく若手教員の悩み等を気軽に話せる機会をつくる。また、教師の新たな学びの実現に向け、研修が主体的・対話的で深い学びとなるよう、ICT機器の効果的な活用を含め研修形態や内容等の工夫を行い、新しい時代のニーズに対応した、教職員としての資質向上に資する研修の推進に努めていく。■ 教職員としての使命を自覚し、規範意識や倫理観を高めることが本市教育への信頼につながることから、引き続き教職員としての資質向上を目指して研修内容の充実に努め実施していく。

施策3 社会に開かれた学校、産官学民連携の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い、これまで制限を受けていた多くの教育活動が実施できるようになり、子どもが体験的に学ぶ機会や外部の講師を招いて学ぶ機会、保護者が子どもの様子を参観できる機会が増えた。また、学校夢づくりプロジェクトを通して、地域の方々とのつながりを大切に地域の企業や大学と連携し取組を進める学校も多くあった。また、令和5年度から、トップアスリートや作家との交流を通して夢の実現や生き方について学ぶ「学校夢づくり+(プラス)」を実施した。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 学校夢づくりプロジェクトや学校夢づくり+(プラス)の実施も含めて、今後も児童生徒が、自分が住む地域のことや社会の情勢等について、体験的に、実感を伴って学ぶことができるよう、地域とのつながりや外部講師等による学習機会を大切に、学校の教育活動の活性化に努める。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針3 次代を見据え大津の教育を活性化する教育改革を行います

施策4 持続可能な社会に対応する教育への変革

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ スクールサポートスタッフや学校生活支援員等を引き続き配置するなど、人的支援を行った。■ 学校における諸課題も多様化、複雑化しており、法的な見地からの助言が必要なケースも増えていることから、月1回の法律相談に加え、引き続き教育委員会内にスクールロイヤーを配置(週2日)することで、学校支援に努めた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 次年度においても引き続き、学校に対して、人的、物的な支援をはじめ、学校組織マネジメントの確立に向けた支援に努める。■ 令和3年度からはICカードにより教職員の勤怠管理を行っており、より客観的な在校等時間の把握と分析、見える化を進め、在校等時間の長時間化を防ぐための業務分担の適正化等、働き方改革を推進していく。■ 教職員の健康保持、メンタルヘルス対策に資するため、ストレスチェックの受検率向上に努めるとともに、高ストレスと判定された者を確実に医師による面談、健康指導につなげるための取組を進めていく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針4 社会全体で子どもを育てます

1. 予定事業の実施状況

A 順調 B 概ね順調 C やや不調 D 不調

子育て地域活動支援事業、子ども・子育て支援事業、家庭・地域教育推進事業といった事業などによって、本方針を構成する3つの施策の実施に努め、実施状況は概ね順調となった。

全指標数	達成	未達成
31	16	15

※A:75%以上(順調)、B:75%未満～50%以上(概ね順調)、C:50%未満～25%以上(やや不調)、D:25%未満(不調)

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針4 社会全体で子どもを育てます

2. 施策における主な評価及び方向性

施策1 家庭・地域の教育力の向上	
取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 各施設においては、安心・安全な環境の提供や、親子で楽しめる事業の実施等取組内容の工夫によって保護者への子育て支援を行った。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 今後も、子育ての不安や悩みを抱えている保護者に寄り添った相談の場や、子育ての楽しさを感じられるような事業等の実施を通して、家庭教育の重要性について啓発を行うとともに、地域における家庭教育や子育てに関する事業の支援を行い、保護者の学習機会の充実に努めていく。■ 大津市子ども読書活動推進計画(第四次)に基づき、乳幼児対象の読み聞かせ事業の充実を図り、絵本の読み聞かせを通して親子のふれあいを深める大切さを伝えるなど、読書の習慣が身に付くような社会全体での取組を推進していく。■ 幼稚園や保育園では、地域の自然環境を生かした遊びや体験活動の充実(体づくり・心を動かす体験等)や地域人材の発掘や活用を推進する。
施策2 子どもを育てる環境づくりの推進	
取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 幼稚園や保育園では、地域人材を活用した保育実践を通して、人と関わる力の育成を図り、子どもたちの遊びや生活が豊かになる環境作りに努めている。また、各園では、工夫して地域の方との触れ合いや交流を行った。■ 令和5年度の子どもの居場所づくり事業は、子どもたちが安心して過ごせる場所を提供するため、昼と夜の部において3箇所の事業所で実施した。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 保育現場で働く保育者の業務改善や職場環境の改善に取り組み、一人一人の保育者がやりがいやゆとりをもって子どもに関わることで保育の質の向上を図っていく。■ 公立児童クラブの狭あい化解消を目的として民間児童クラブの参入促進を行い、新たに4つの民間児童クラブが開所することとなった。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針4 社会全体で子どもを育てます

施策3 「チームとしての学校」の推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 学校運営協議会の設置(令和5年度末:幼稚園2園、小学校全校、中学校16校)により、子どもを中心に据えて家庭・地域・学校が協働しながら成長を支えていく体制づくりが整いつつある。各協議会の内容の充実を図るために、コミュニティスクール研修会を開催し、他市の先進的な取組を紹介するとともに情報共有を行った。■ 子どもの抱える課題や生徒指導上の課題の解決、改善のため、学校生活支援員等の人的支援とともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー等の専門家を配置した。また、令和5年度から 学校でのケース会議等に精神科専門医を派遣し、医療的見地から助言を行うことにより、子ども支援の充実に努め、学校への支援体制を強化した。学校を核にしながら専門的な観点を踏まえた方策の検討、対処が多く行われ、「チームとしての学校」の考え方の意識が高まり、学校園だけで課題を抱え込まないようになってきている。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 学校運営協議会については、早期から導入した学校や新しく設置した学校があり、よりよい活動につなげるためにも、「地域とともにある学校」の趣旨を再確認し、自校の運営状況を評価しながら改善を図る必要がある。引き続き、研修会や他校の事例等を紹介するなど、学校運営協議会が活性化するよう支援していく。■ 学校園では、多くの専門家、関係機関と円滑に、また、効果的に、連携するためにも、連絡調整機能をしっかりと果たしていくとともに、学校組織としての考え方や方策を共通理解しながら子どもの支援の充実に努めていく必要がある。今後も、学校園がより適切な子どもへの支援が行えるよう体制の充実に努めていく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します

1. 予定事業の実施状況

A 順調 B 概ね順調 C やや不調 D 不調

生涯学習推進事業、文化財指定推進事業、生涯スポーツ推進事業、人権啓発推進事業といった事業などによって、本方針を構成する4つの施策の実施に努め、実施状況は概ね順調となった。

全指標数	達成	未達成
49	29	20

※A:75%以上(順調)、B:75%未満～50%以上(概ね順調)、C:50%未満～25%以上(やや不調)、D:25%未満(不調)

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します

2. 施策における主な評価及び方向性

施策1 主体的に学び、行動できる人材の育成	
取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 出前講座はメニュー表をリニューアルして内容を充実し、メニュー数149件のうち81件の講座についてオンライン受講を可能とした。■ 各センターにおいては、住民サービスの向上・親しみやすい施設として、様々な自主事業を実施することで生涯学習の場の提供を行った。■ 図書館では、紙の本での資料整備に加え、マルチライセンス型コンテンツの導入など電子図書の整備を拡充し、高度化、多様化する市民ニーズに応えられるよう取り組んできた。また、子どもの読書活動推進で、学校園等と連携し、団体貸出を積極的に実施した。さらに、誰もが利用しやすい図書館を目指し、バリアフリー資料の整備に取り組んだ。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 出前講座や大津人基礎講座・大津人実践講座については、今後も市民の学習ニーズに応じられるよう、工夫して開催していくとともに、地域と連携しながら「学びと活動の循環」を更に促進できるよう取り組んでいく。■ 各センターにおける事業は、安全・安心な学習環境を維持しながら、利用者数の増加に向けて、魅力ある事業を展開していく。■ 図書館事業に関しては、子どもの成長段階に応じた資料提供や移動図書館による出前特別巡回、また、バリアフリー資料及び郷土資料の収集やマルチライセンス型電子図書コンテンツの整備など、今後も資料整備と機能充実に努めていく。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します

施策2 大津の歴史と伝統、文化を次代に継承する学習機会の充実

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 歴史博物館は、れきはく講座の開催回数が新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻り、また展示会場でのギャラリートークや大津絵・花押ワークショップなどの体験型講座も増加した。■ 文化財保護課については、国宝延暦寺根本中堂及び重要文化財根本中堂回廊など、指定文化財の保存修理・管理への支援等を行った。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 歴史博物館に関しては、展覧会や講座等の開催回数や定員を平常時に戻すとともに、幅広い層に歴史博物館に来館してもらうために、ワークショップなどの内容を充実させる。■ 文化財保護課に関しては、次世代に良好な形で文化財を継承していくため、引き続き、市内の価値ある指定文化財等の保護を行っていく。

施策3 市民の健康づくりと生涯スポーツの推進

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 地域でのスポーツ活動を支えるスポーツ推進委員の活動として、スリースマイルゴルフ大会やスマイルボッチャ大会を実施するとともに、各学区への出張型ボッチャ事業を実施するなど、生涯健康づくりとスポーツの推進に向けた取組を進めた。■ 子どもから高齢者まで幅広い世代の市民が参加できる市民体育大会を開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大後、参加者が減少している。■ これまでから地域におけるスポーツ活動への支援を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により長らく中断・縮小されてきた活動が、感染症法上の分類が5類に移行したことに伴い再開され、感染症拡大前の水準まで達することができた。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ スポーツ推進委員の活動については、今後も、ニュースポーツや障害者スポーツの普及拡大に努め、市民が気軽に参加できる大会やイベントの企画に努める。■ 市民体育大会については、社会情勢や価値観の変化に伴い、市民ニーズも変化してきたことから、時代にあった大会の見直しを行っていく。■ 地域におけるスポーツ活動については、引き続き、各種団体への支援を行うことで、各地域でのスポーツ活動の充実を図る。

3 進行管理

(2)結果

③基本方針毎の整理

基本方針5 共に生きる地域づくりのための社会教育を推進します

施策4 思いやり・助け合いの心の醸成

取組内容等	<ul style="list-style-type: none">■ 人権を考える大津市民のつどいは、開催回数を変更するなど持続可能な形を模索しながら、地域の実情に応じた継続的な取組が行われた。■ 人権を守る大津市民の会が中心となって、人権啓発紙「わたしと人権」の作品募集や発行、「わたしと人権」入賞作品展、駅頭街頭活動などを行った。
方向性	<ul style="list-style-type: none">■ 全ての市民の人権が尊重される地域社会の実現に向け、本市と人権学習団体とが両輪となって、それぞれの役割において人権学習を推進していく。■ 市民運動としての輪を広げるために、構成団体の相互の主体性を尊重しながら人権啓発に努めていく。